

7月号です。気付けば111号、ゼロ目です。

TOPICS

今月の練習予定

音の祭典の楽曲について

# GENERAL PAUSE

## 今月の練習予定

7月の練習予定です。（施設が使えることを前提としたスケジュールです。）

月	練習日	合奏の時間	曲目
7	13	19:00~21:00	夏祭りの練習
	20	19:00~21:00	夏祭りの練習、祭典の練習
	27	19:00~21:00	夏祭りの練習
8	3	19:00~21:00	夏祭りの練習、祭典の練習
	10	19:00~21:00	夏祭りの練習
	17	19:00~21:00	夏祭りの練習
	19		夏祭り本番
	24	19:00~21:00	祭典の練習

### 夏祭りについて

開催予定日：2023年8月19日 土曜日 16:15~17:30ごろまで、二部公演予定

衣装は吹奏楽団公式Tシャツです。

お持ちでない方、無地の好きな色のTシャツをご自身で用意して亀村さんまで。（7月中）

### 音の祭典について

開催予定日：2023年11月12日日曜日

## 音の祭典の演目について

今年も音の祭典への出演団体の公募がはじまりました。吹奏楽団もエントリー用紙を提出しました。今年の音の祭典では、2曲演奏します。うち1曲は5曲の組曲です。（音楽用語は自分で調べましょう。）

・ 鷲の舞うところ (Where Eagles Soar) 作曲：スティーブン・ライニキー

アメリカ北東に位置するメイン州にあるアカディア病院から創立10周年を記念して委嘱された楽曲です。メイン州の美しさや壮大さを描写した楽曲。

・ 5つの宮廷舞曲 作曲：ウィリアム・ブレイド (ルネサンス期後期～バロック初期)

ウィリアム・ブレイドは、イングランド出身の作曲家でバイオリニスト、ヴィオラ・ダ・ガンバ奏者。イングランド時代についてはほとんどわからない。1590年頃にドイツに渡り、ブランデンブルク辺境伯の宮廷オーケストラでバイオリニストとして活躍していた頃から、初めて記録に現れます。

その後、デンマークのコペンハーゲンの宮廷やビュッケブルク・ホルシュタインの宮廷、マクデブルク大司教の宮廷楽長などを歴任。

当時のドイツでは、海外の音楽語法を取り入れ、大きく発展しようとしていたと言います。ブレイドの作品集では、イングランドの作曲家の様式を取り入れ、その音楽語法を紹介し、当時のドイツでは馴染みの薄かった舞曲も紹介しています。

構成：王のイントラダ、スコットランド舞曲、コランタ、2つのアルマンド

イントラダとは：16、17世紀頃の演奏開始、幕あき、または人物登場のときの楽曲。祝祭風ファンファーレや行進曲風の性格を持つ。17世紀初期のドイツの管弦楽組曲に取り入れられた。

コランタ：フランス語の「走る」という語に由来する舞曲。16世紀に起こり17世紀中頃には組曲の1曲として成立。速い3拍子で絶えず走り回るような音型をもつイタリア風コレンテと、より洗練され中庸の速度で拍子の交替を特徴とするフランス風クラントの2種類がある。

アルマンド：「ドイツ舞曲」の意味。16世紀フランスで起こった緩やかな2拍子系の舞曲。17世紀には様式化されている。

## 編集後記

5つの宮廷舞曲の楽曲解説を書いていたのですが、作曲者が生きた時代が日本での室町時代後期（安土桃山時代）くらいから江戸時代初期にかかるんですね。ちょうど今、大河で放送している時代くらいではないでしょうか。<了>